

6. "Remote" Ensemble Salicus Live :

定期演奏会を開催予定であった5月22日に、SKから生まれた少人数アンサンブル、Ensemble Salicusのメンバーでライブ配信を行います。遠隔でリアルタイムではアンサンブルできないので、この日のために制作した多重録音による作品を公開いたします。Salicus KammerchorのYou Tubeチャンネルでの配信で、視聴は無料です。

<https://is.gd/CnUP7f>

7. Tallis の 40 声 のモテット企画 :

こちらも Ensemble Salicus としての企画ですが、Thomas Tallis の 40 声 のモテット "Spem in alium" を Ensemble Salicus のメンバーで 1 人 10 声 ずつ 担当 し 多重録音します。

その音源をアマチュアの歌手の方と共有し、その演奏に重ねる形で一つの音源作品を制作します。制作期間中お1人1回30分のリモートレッスンを希望者は受講できることとし、制作に関わる質疑応答は期間中無制限にできるものとします。近日中に募集を開始いたしますので、続報をお待ち下さい。



アマチュア合唱団 Chor Eleusis

での取り組み



1. 対面リハーサルの中断 :

3月25日を最後に対面練習を中断しています。もう少し状況が好転したらフェイスガードを使用して対面練習が再開できないか検討しています。



2. コンセプト・練習方法の共有 :

合唱団エレウシスでは以前からサークルスクエアというウェブサービスを利用して出欠管理や練習内容の報告をしていましたが、その中にあるブログ機能を使って、メンバー向けに団体のコンセプトと練習方法についての記事を書いています。

現在「発声（動法）」「発声（観法）」「グレゴリオ聖歌・古ネウマについて」の3本の記事をアップしています。

3. Zoom を利用しての遠隔練習 :

話題の Zoom を使った遠隔練習をエレウシスでも取り入れています。同時に声を出すと遅延があるため、常に歌うときは進行役以外をミュートにしなければならないため、実際のアンサンブル練習はできませんが、意外とメリットも多いなという印象です。

・練習法その1

進行役が旋律を歌って示し、それに続いてメンバーが歌う。また進行役と同時に歌う。また進行役の歌うパートに対して、別のパートをあわせて歌う（進行役との二重唱）。

メリットとしては、合唱団のメンバー同士もお互いの声が聞こえないので、自分の声に集中して向き合うことができます。

・練習法その2

この練習の場合、進行役にもメンバーの声が聞こえないのでフィードバックができません。そのため折に触れて、メンバーのどなたか一人で歌ってもらい、それに対して進行役がコメントを加えるということをやっています。つまり一対一の個人レッスンをメンバーも聴講するという形です。お互いのことをよく知れますし、進行役が何を聞いていて、どういうところがポイントなのかということがわかります。



4. soundtrap を利用した練習 :

Zoom での練習は、単旋律か二重唱の練習となります。つまり 3 声以上の練習はできません。そこで、多重録音サービス soundtrap を使って、擬似的にアンサンブルをするという練習をしています。

- 1) まず私が多重録音で全パートを歌って、その音源を soundtrap にアップします。
- 2) 譜読み段階では、自分のパートの音だけを再生、あるいは他のパートの音を小さくして再生しながら一緒に歌います。

- 3) ある程度歌えるようになったら今度は自分以外のパートを再生しながら、自分のパートを歌います。つまり3人の私と1人のメンバーとのアンサンブルです。
- 4) 習熟してきたところで上記同様に自分以外のパートを再生しながら自分のパートを録音します。
- 5) 週1回のZoom練の際にその録音を確認し、アドバイスをを行います。
- 6) 全員分の録音が集まったところで、自分以外の録音を全て再生しながらもう一度歌い、録音します。先程の録音は3人の私と1人のメンバーとのアンサンブルでしたが、今度は合唱の中での自分の歌ということになります。

まだエレウシスはここまで到達はしていませんが、ここまでいけばかなり合唱をやっているという感覚を得ることができるのではないかと考えています。

以上私がプロの合唱団とアマチュアの合唱団とで行っている取り組みについてご紹介いたしました。

最後にご紹介した多重録音による練習ですが、これ全てがWeb上で完結しているので、全部自宅できます。つまり地域格差がないんです。どこに住んでいても、海外ですら、この活動には参加できます。



この状況が長く続けば、こういった方法で日本中、世界中のメンバーを集めた合唱団ができるかもしれません。どこに住んでいても、好きな合唱団に入れる。受けた人に指導を受けられる。そういう可能性を見出すことができたということだけでも、一筋の光明かと思います。

将来的には日本各地のメンバーが遠隔練習を行い、本番は日本のどこかで、ゲネプロ本番で演奏会が行われるような、そんな団体ができるかもしれません。

本は旅費がかかりますが、普段の練習に交通費と会場費がかからないので、普通の合唱団の形に比べて意外とそれほど費用の差はないかもしれません。ちょっとワクワクしますよね。

この状況がいつまで続くかわかりませんが、たとえ10年続いたとしても、合唱という文化が崩壊することなく、音楽家という職業が絶滅することないように、準備し、計画し、実行していきます。

読者の皆様も何かアイデアがあれば、シェアしていただけると助かります。知恵を出し合って、不屈の精神でこの危機を乗り越えましょう。

ご連絡はどうぞお気軽にこちらまで

→ g.sakurai.office@gmail.com

< 了 >

【Profile】

広島大学教育学部第四類音楽文化系コース、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院古楽科をバロック声楽で修了。ヘンデル「メサイア」バッハ「短調ミサ」「教会カンタータ」「マタイ受難曲」モーツァルト「レクイエム」などのソリストを務める。

Salicus Kammerchor、Ensemble Salicus、Chor Eleusis 主宰。フォンス・フロリス古楽院講師。東京藝術大学バッハカンタータクラブ 2013-2015 年度演奏委員長。ヴォーカル・アンサンブル アラミレ、リーダー。emulsion、Ensemble XENOS、The Cygnus Vocal Octet、ジャパンチエンパークワイア、ヴォーカル・アンサンブル カペラ、古楽アンサンブル コントラポント等に所属。